

要 望 事 項

会派名 無会派 池谷 晴一

事 業 名	内 容 説 明
① 2次救急に対応する救急医療センターの早期開設	1分1秒を争う助かる命を助ける医療体制の充実が求められている。1次救急を担う救急医療センターは、建築後42年を経過し老朽化している。また、センターの医師については、市医師会からの派遣医師及び市外から招^{しょうへい}聘した医師が、治療や他の医療機関への紹介を行っている中、市内の2次救急医療機関は、救急医療への対応が負担という訴えがあった。 全国的には赤字経営の公立病院が多いという状況の中、市救急医療センターも多額の市費、町費を投入して1次救急医療に対応しているが、将来を見据えれば、市救急医療センターは、広く医療関係機関の提案を取り入れながら、民設民営、あるいは公設民営、PPP、PFI等手法により、市町負担を軽減しつつ、2次救急まで対応する救急医療センターとして建て替えるべきであり、早期検討を要望する。なお、県が新たな地域医療構想を検討するという報道があった。本市の救急医療の現状を鑑み、市民の立場に立った適切な検討がなされるよう努力されたい。
② 「スポーツタウン」にふさわしいスポーツ環境整備について	御殿場市陸上競技場はピッチ内の芝生（野芝＝観賞用の芝＝競技用ではない）保護のため、サッカー等ピッチ内で行う競技について使用日数が著しく制限されており、冬場や夜間のナイター利用が認められていない。また、ピッチの縦横が各4m不足しているなど公式戦の開催に不適となっている。ピッチ等の改修には多額の費用を要するため、ラグビーなど様々な球技にも対応し、かつ、スポーツ合宿利用拡大にも対応し、昼夜、雨天でも利用できる新たな人工芝球技場建設への早期取組を要望する。 一方、市は、「スポーツタウン」を標^{ひょうぼう}榜する中、マイナー競技や障害者スポーツ等広範な競技に対応するスポーツ施設環境整備施策推進を要望する。なお、当面マイナースポーツであるアーチェリー競技人口拡大のため、弓道場の併用利用等の施策を進めていただきたい。